今年試作してほしい新品種

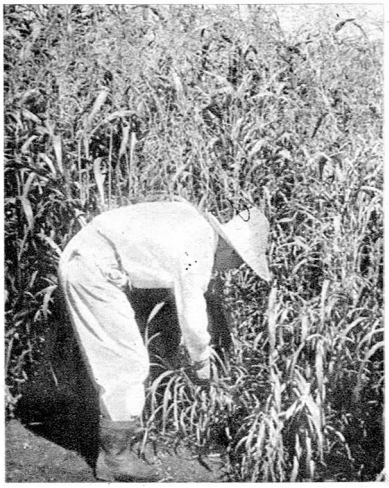
耐病系赤クロバー ハミドリ

赤クロバー病害の大敵、炭疽病、銹病にメッポウ強く、開花盛期でも葉は緑したたる生育をつづけ（他の品種は葉が黒変しても本品種は**葉は緑**）さらに菌核病（冬枯れ）にも強く、三～四年は充分利用できる多収耐病性品種です。（写真右白線内がハミドリ）

サットン・スペシール

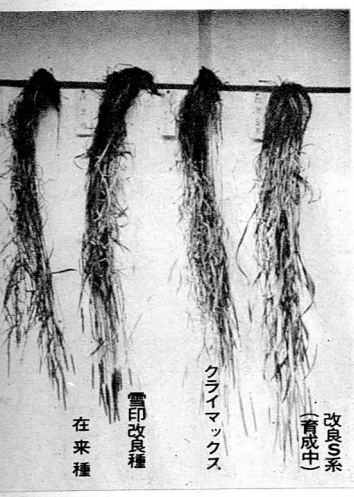
デントコーンサイレージの蛋白を高めるために混作する豆科作物の中で、最も作り易く、刈取りも容易、収量の多いのが、青刈菜豆、サットン・スペシールです。

スーダングラスの優良品種



暑さに強く、夏負けしない再生力の強いスーダングラスは、確かに**一萬貫牧草**の名にふさわしい多収な青刈ですが、品種によっては葉枯病がひどく、生育も非常に劣るものがあります。栽培は是非これらの心配のないスイート、テフト、パイパー等の優良品種を。（写真右は在来種、左は優良品種）

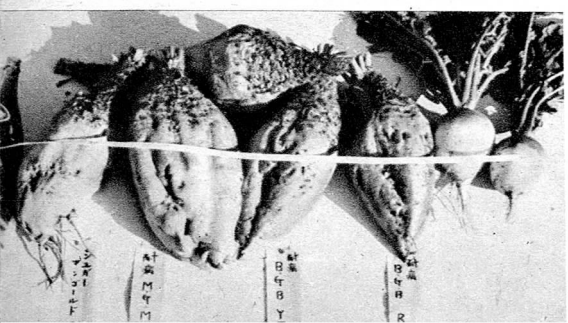
チモシー（クライマックス）



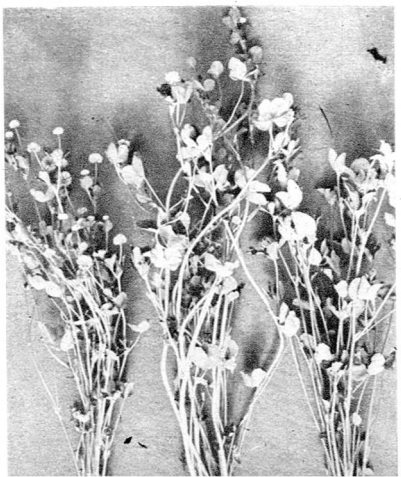
寒いカナダで重用されてるチモシークライマックスは、チモシー中でも最も耐寒性が強く、冬枯れをしらず、さらに収量特に葉の量の多いことは今までの品種の比ではありません。

家畜ビート M・G・M

M・G・Mのお蔭で葉を枯らさずにビートつくりが出来た、と喜んでいる農家の方の声を耳にしました。褐斑病に強く、従って多収で、肉質も堅く、貯蔵力があり、甘味が強く（ケトージス対策にもよい）理想の優良品種。



四倍体



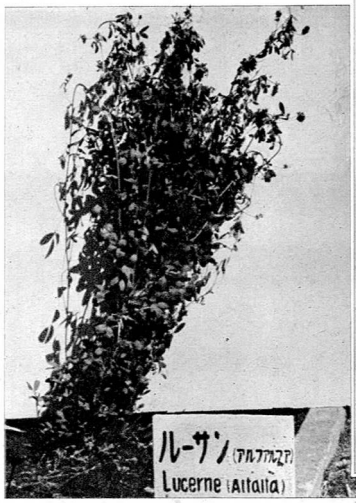
高冷地、寒冷地、湿地、強酸性地にグングン伸びて来たアルサイククロバーの中でも、茎葉が一まわりも二まわりも大きく多収なのが**四倍体**品種です。開花は一〇日前後の晩生収量は四～五割増収。（写真は右から赤クロバー、アルサイククロバー四倍体（目下増殖中）アルサイククロバー）

優良飼料作物　まめ科

赤クロバー

どこでもよく出来る赤クロバーは、刈取り用荳科牧草としては最高のものです。
寒、高冷地では２～３年利用の輪作草に、暖地では秋まき、夏どりの一年草２～３度刈り栽培が有利です。

ルーサン



播種後二ヵ月で五〇㌢以上、二年目で写真のように三㍍近くも根を伸ばすから、ルーサンは暑熱に強いのでしょう。
夏枯れを知らない、再生力の旺盛な永年多収の荳科牧草の王様はルーサンです。
全国的によく出来るデュピーを始めとして、暖地で特に評判のよいウイリアムスブルグ、ナラガンセットも準備しました。

ラデノクロバー

ラデノクロバーの良さは今さら説明の要のないほど、全国的に普及利用されています。集約草地に、園地の被覆に、畦畔草の改良に、極端な乾燥地を除いては、どこでも、いつでも、どのようにでも使える万能選手です。

アルサイクロバー

高冷地、寒冷地、あるいは湿地、酸性地のような不良土壌地帯ほど、家畜の導入＝草作りが要求されますが、寒さに強く、湿地、酸性に強いアルサイククロバーは、この条件にピッタリの短年性荳科牧草で、種子価格も赤クロバーに比し割安です。

青刈大豆

作りなれている大豆の青刈も、真夏の高蛋白飼料として是非作付けを。
葉が大きくて、短期間に多量の生産のあがる早生系（春まき夏どり用）雪印９号、同10号をお試し下さい。きっと牛の夏ヤセを防止してくれます。

カウピー

真夏に暑さに強いものとして、テ玉こオシント、ソルゴー、スーダン、蜀黍がよく利用されていますが、これだけでは蛋白が少なく乳が出ません。これにカウピーを混作しますと、鬼に金棒、量、質とも満点です。

コンモンベッチ

秋まき冬作だけがコンモンベッチの利用ではありません。早春まき、夏どりは牧草の夏枯れ対策に、晩夏まき秋どりは秋のツナギに、酷暑の時期を除いては、いつでもまける作り易い短期生育の青刈用。

いね科　雪印がおすすめする

チモシー

寒、高冷地の永年性いね科牧草の最右翼はチモシーです。ウチの牛はチモシーが好きでネ、とよくきく言葉ですが、当然です。草質がよく、乾草作りも容易に出来るからです。草地造成にはぜひチモシーの混播を。

オチャードグラス

牛と共に伸びて来た草、それはラディノクロバーとオチャードでしょう。いずれも適地が広く、どこでもよく出来、再生力が旺盛で、絶えず若草を刈取ったり、連続放牧がきくからです。園地や、林地の日陰にも強いのはその名の示すとおりです。

イタリアンライグラス　H・ワンライグラス

インスタントばやではありませんが、成草地に使って価値を発揮してくれる牧草はライグラスです。

春にまいて夏には立派な牧草地にしようという時には、**イタリアンライ**を主体にします。写真上は、春まきで、右から播種後二五日、三〇日、三五日、四〇日、四五日で、こんなに伸び、分蘖も旺盛です。また短年草地には利用期間が永く生育旺盛な**H・ワンライ**を。

テオシント

スーダンやソルゴーよりも葉が多く、玉蜀黍のように二度、三度まきの不要な再生力の旺盛な青刈がテオシントです。

ただし、関東以西の暖地でなければよく育たない熱帯作物です。

青刈燕麦　太豊・豊葉

太豊

新品種発表以来各地で好評を得ている青刈用として育成した優良品種で、葉は大きく、茎も太く、分蘖も伸長型品種としては多い方で、どこで作っても今までの品種より二～四割は多収で青刈燕麦の新横綱でしょう。

春まきでサマーサイレージ用としては最適です。収穫期は前進、ビクトリーに較べて二～三日遅れです。

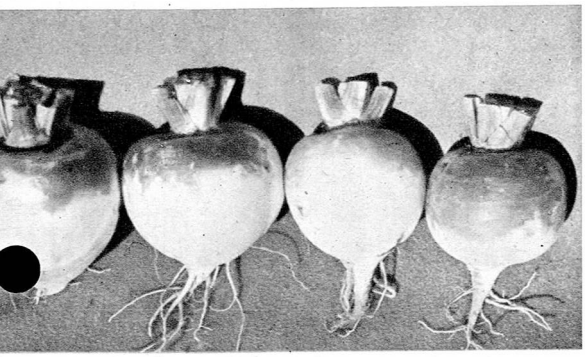
豊葉

その名の通り、非常に葉の多い品種です。元来は暖地での秋播品種として優れていますが、春まきの場合は分蘖も多く、五〇～六〇㌢の畦幅に播いても止葉頃には畦の見当がつかない程株が張り、葉が多く、一見牧草の撒播圃場の観がする程よく繁茂し、その上草質が軟らかく、前進、ビクトリーに較べて出穂が約半月も遅れますから、青刈りの長期利用にも役立ち、青刈給与用の多収品種です。

写真は、右から太豊、雪印一〇一号、豊葉、スワロフステール、ビクトリー一号、前進、岡山黒。

家畜かぶ

２～３ヵ月で収穫の出来るスピード根菜のかぶは、暖地では水田前作として早春まき（改良紫丸かぶがよい）も有利。
また寒冷地の春まきも牧草の一番と二番の端境期をつなぐピンチヒッターとなります。
春の早まきは、小岩井かぶや、下総かぶでは薹立ちして（低温に感応しやすい）根の太らないことがありますから、必ず改良紫丸かぶを利用されることをお奨めします。



家畜ビート

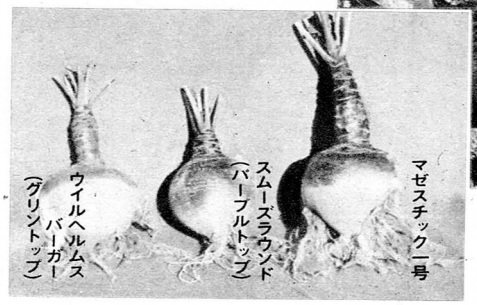
穀類の十分の一の栄養価の飼料と言われている家畜ビートの根部は、いわば薄めた濃厚飼料でもあるわけです。それに加えて、生鮮多汁ビタミン類も多く健康飼料、さらに頸葉部（トップ）は高蛋白でクローバーに匹敵する良質飼料、どんなに労力がきつくなっても、やはりビートはやめられないだけの良さがあります。暖地では早春まき、夏どりで、牛の夏まけ防止に役立ちます。
（シュガーマンゴールドも、耐病性M・G・Mも今年は充分準備してあります）
家畜ビートは一〇㎡当り少くも四、〇〇〇㌔以上の根菜を収穫しなければ間に合わぬと言われていますが、よい土地に早まきすることが増収へのスタートとなります。

家畜南瓜（ポンキン）

おバケ南瓜と言われる巨大な（１コ30～40㌔）ポンキンは、暖地では春霜の心配がなくなったら早速播種、酷暑前に収穫、寒、高冷地では秋に収穫、生のまま家畜に与えますが、これほど乳量の増加の目立つものは他にないようです。
更に見逃せないものにビタミンＡ（カロチン）が豊富で薬餌的効果も貴重です。
昔から冬至に南瓜を食うと病気にならないとはよく言われていますが、このカロチンによって抵抗力が出るからでしょう。家畜も暑さに向う時期や、冬の舎飼いに入る晩秋にポンキンでどっさりカロチンを補給を致しましょう。

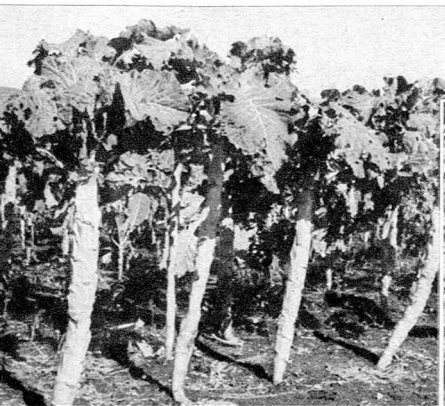
ルタバガ

土地が瘠せていたり、気候が冷涼であって、ビートが充分育たない地帯によく出来るルタバガ（スエーデンかぶ）も、家畜ビート同様ぜひ作付して冬に備えましょう。
写真下は右からマゼスチック１号、スムーズラウンド（パープルトップ）、ウイルヘルムスバーガー（グリントップ）



ケール（掻き葉かんらん）

大きな葉を年中掻きとって、家畜や家禽に与える集約作物です。
一株から一日おきに五〇～一〇〇㌘内外の大葉を一枚ずつ初冬まで取りつづけ、最後には茎（一〇㎡当り四、〇〇〇㌔）をキザンで与えることもできるものです。
収量が多く、栄養価も高く、とくにビタミン類も多量に含まれているので、貴重な緑餌飼料として鶏、豚等の小家畜に与えるのも面白いものです。



春まき夏どり飼料

エサ作りのインスタントコース

早春まき２ヵ月半で収穫出来るイタリアンライグラス

早春にまいて、二ヵ月あまりで出穂を始め刈取りが出来ます。そして収量も青刈燕麦にけっして劣りません。寒冷地ではさらに二番、三番と秋まで軟らかい葉の多い青刈が得られます。

またイタリアンライを利用してさらに生産を挙げようとするときは、混播を行ないますが、その相手として適当なものは青刈燕麦とベッチ、さらにクリムソンクロバー、秋まで連続利用ではラデノクロバーの混播も有利です。

生育の早いクリムソンクロバー

早春播種、二ヵ月あまりで真紅な花をつけ、刈取り利用できます。

特に燐欠土壌でもよく出来、一回刈りで四、〇〇〇㌔くらいの収量は各地で得ています。

多収で栄養価の高いレープ（C・O）

春、夏、秋、冬と周年栽培して多収な青刈用ナタネ。

作り易く、収量が多く、栄養価は蛋白も高く、生産飼料として充分使えるものです。

特に春まきは抽薹が遅く、いつまでも大きな葉の生産をつづけます。

寒さにも強く、弱酸性地、湿田にもよくできるので、水田裏作、桑園間作、果樹園下作、畑地など全国どこでも栽培できるものです。

単播でも写真のように多収が期待できますが、青刈麦類と間混作もでき、成分的にも均衡のとれた飼料を生産することができます。

燕麦とベッチの混播

燕麦のほとんどの品種は春にまいてよく生育するものなのです。そしてこれの混播相手はコンモンベッチがピッタリです。特に交互畦作りは両者ともよく生育します。

また燕麦には一〇㌃当り〇・五～一・〇㌔のイタリアンライグラスを混ぜてまきますと、収量も多く、葉の多い青刈りが得られ、それにベッチが程よく混ざると栄養の釣合もよく、青刈燕麦は乳が出ないとか、燕麦のエンシレージは好食しないとか言うことがなくなります。

燕麦とベッチ混播の刈取り

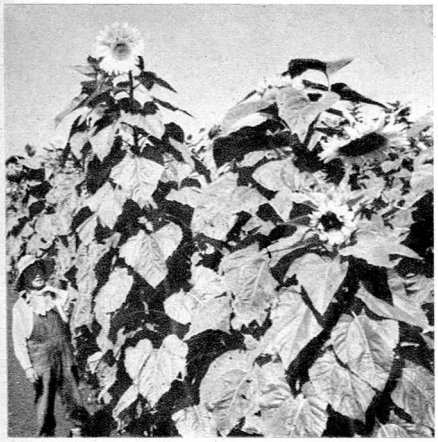
まいて六〇日もしますと、もう刈取りが出来ます。

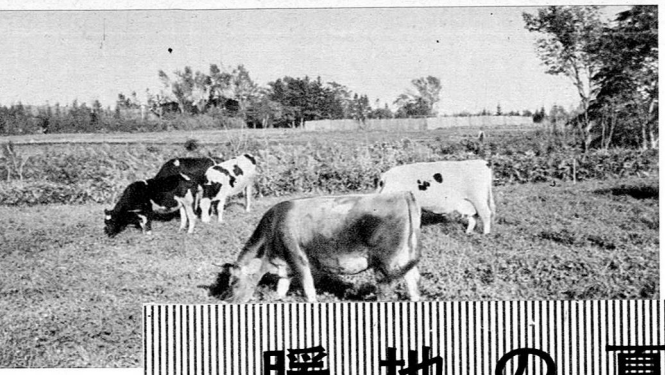
早くから刈取るときにはイタリアンライをまぜますと、直ぐまた二番が刈れます。

作り易く生育の早い大葉多葉性ひまわり

ひまわりの栄養はほとんど葉にありますが、重さの半分近くが葉というこの改良品種は、寒さにも強く、早春まきが出来、短い期間で多収が得られます。

またデントコーンの欠株に、一番除草の時期に１～２粒補播しますと、秋にはデントコーンを追こす位のびます。





いつまでもあると思うな春の草

暖地ではすぐ牧草の枯れる暑さと乾燥がやって来ます。そしてその時期は乳価も高く、沢山乳を搾りたい季節です。早春のうちに「夏がれ対策」を。

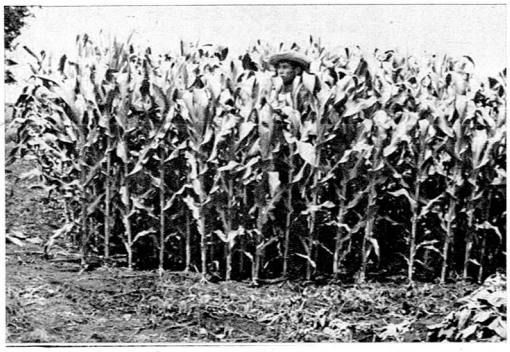
暖地の夏がれ対策に

暑熱に強いソルゴー

甘味が強く、暑さで弱った牛もモリモリ喜んで食うソルゴーは、暑熱と乾燥時によく生育する南国産です。

最初の生育がちょっと遅いので、初期生育の早いデントコーンとの交互畦（七五㌢おき）まきもよいでしょう。

デントコーンを密条播に



デントコーン（モロコシナンバ）を短い期間に多収するには密条播がよく、収量も多く軟いので青刈り給与に最適。

暖地の春まき家畜ビート

霜にあっても強いビートは、二～三月に早まきしますと、約四ヵ月もたてば立派な家畜ビートがとれ、夏やせの牛を元気づけてくれます。

再生力の旺盛なルーサン

真夏の時期で、どんどん生育をつづけるルーサンは、正に「牧草の女王」です。刈取って二〇日もしますと、真夏でもごらんのように伸びます。

根の長いブロームグラス

根は長く、多い草ほど、暑さや乾燥に強いのですが、ブロームグラスもその一つ。そしてこれは非常に葉が多く、大きく、蛋白の高い草です。

水田前作に燕麦とイタリアンライの混播

夏の貯蔵用として、水田前作に短期間（二ヵ月ほど）で収穫の出来るイタリアンライグラスと、青刈燕麦の混播を。

田植前に刈取って乾草か、エンシレージに。

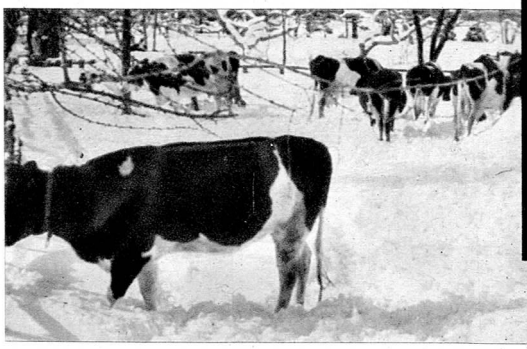
寒冷地では冬期飼料の準備をおこたりなく

実のよくとれるハイブリッドコーンを

実のつかないデントコーンのエンシレージでは、栄養はさっぱりです。
重量の半分くらいは実という一代雑種（ハイブリッドコーン）を、そしてあまり密植しないで（一〇アール当り五、六、〇〇〇株）秋まで枯れず、葉まで高くなる（蛋白の多いエンシレージ材料がとれます。

デントコーンは蛋白を高めるために豆科作物を混作

スイートクロバーや青刈菜豆、青刈大豆の混作がこれです。
同時にまいたスイートクロバーは、秋には二㍍にも伸びます。



豆科牧草の混った良質乾草は蛋白の不足を補ってくれます

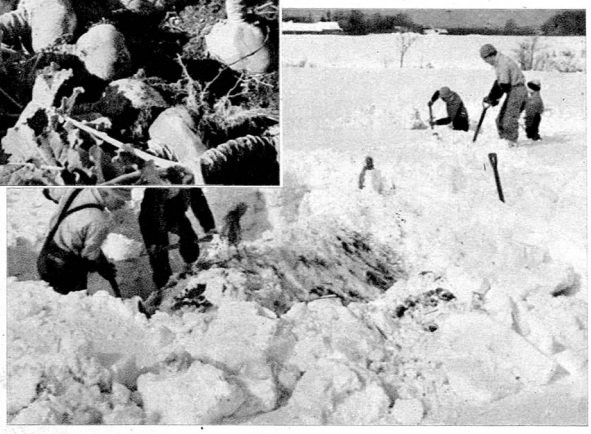
乾草はなるべく若刈りを、そして豆科の混入が多いほど蛋白が高くなるのは当然です。
最近は採草地へもラデノクロバーがどんどん入れられてこの役割を果しています。

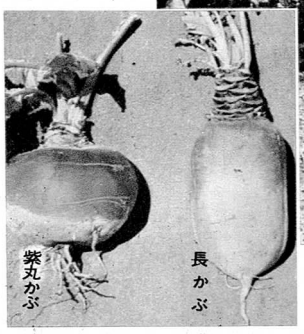
春来たりなば冬遠からず

長い冬の間、乳牛は健康で沢山の乳を生産するためには、蛋白の高いエンシレージと、良質の乾牧草、そして多量の根菜の準備が必要。

乳は根菜で搾るもの

根菜の栄養は穀実と同じような組成です。いわば薄めた濃厚飼料とでも言えましょう。従って生産飼料としてはうってつけのものです。しかも多汁質で、他の乾燥飼料の消化を助け、ビタミンが多く、家畜の健康にも必要です。
短期間で生育する**かぶ**、比較的不良土壌でも出来る**ルタバガ**、貯蔵のきく**家畜ビート**、これらで一冬分の根菜を。





省力化（てまをはぶく）の飼料作り

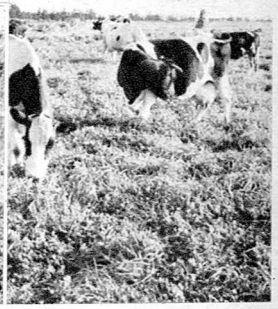
—安定した多収な牧草をつくることです—

●牧草ほど多面利用の出来る飼料はありません。しかも一度収量の高い安定した牧草地が出来れば、この間、耕起、播種の作業と労力は全く省くことが出来、単に刈取りと追肥を行なうだけで間に合います。もちろん生産費も安価です。

エンシレージ　生草に近い高栄養に貯蔵が出来ます。

乾草　栄養が多く、便利な貯蔵飼料の乾草製造。

青刈給与　青刈りの連続給与にも有利。



放繋牧　刈取りの手間もかからない放繋牧は、常に栄養の高い若草が供給出来、家畜も適度の運動ができ最適。

●安定した多収な牧草地をつくるには、まず牧草のよく育つ土地をつくらねばなりません。

堆厩肥の施用が出来ればさらによし。そして深耕し、整地は丁寧に。

牧草のよく出来る土壌条件		
条件	適地	一般の土壌
酸度	P. H6.5度以上	P. H4.0～5.0度（酸度が強い）
燐酸	300単位（p. p. m）以上	50単位以下（必要の6分の1以下）
苦土	350単位以上	120単位以下（必要の3分の1以下）
石灰	0.15～0.20%以上	0.10%（必要の2分の1以下）
アルミナ	50単位以下	200～300単位（極めて多い）

優良牧草がよく育つためには、土壌の化学性を上表の程度にしましょう。具体的には**石灰**と**熔性燐肥**を施用することです。

●適牧草を選んで上手にまき、よく管理することです。

よく出来、よく管理された混播草地、そしてこれが放繋牧にも、青刈りにも、そして乾草やエンシレージとして貯蔵されるわけです。

草地造成の場所、時期、導入牧草等、よく合う作り方、利用のしかたや手入が安定、多収への道です。